

学生ならびに会員向けランチョンセミナー 「水環境分野で働く女性たち：いろいろなキャリアパス」報告

男女共同参画推進委員会 麻布大学 大河内 由美子

第53回年会の初日である3月7日の12時20分から、男女共同参画推進委員会と関東支部の共催で、学生ならびに会員向けランチョンセミナー「水環境分野で働く女性たち：いろいろなキャリアパス」を開催した。今回のセミナーでは民間企業（水処理メーカー）所属の3名、関東支部から推薦いただいた地方環境／衛生研究所、地方行政機関所属の3名に加え、大学教員1名の計7名の女性技術者・研究者を話題提供者として迎え、お話しいただいた。キャリア歴も入職後5年の若手から、育児真っ最中、そして男女共同参画の概念が浸透していない時代に入職してキャリアを積んできたベテランまで、ライフステージも多様であった。一方、参加者は総計23名で、内訳を見ると11名が学生会員（高専生および学部生6、修士課程院生3、博士課程院生2）であり、大学院生の割合が高い例年とは異なる傾向を示した。残る12名が社会人であり、とくに地方環境研究所からの参加者が6名に達していた点が今年のもう一つの特徴と言えよう。午前中の発表セッション終了後、J会場に集った年会実行委員の方々に加え、話題提供者や参加者の皆様にも会場設営にご協力いただき、新聞記者2名が加わり定刻から10分ほど遅れてセミナーを開始した。

初めに、男女共同参画推進委員会・池本委員長からセミナー開催挨拶と趣旨説明を行い、6グループに分かれて着席した参加者に対して、話題提供者から自己紹介ならびに多数のキャリアにまつわるエピソードをお話しいただいた。内容は、水環境分野で仕事を始めたきっかけ・動機や本分野の仕事の特色・魅力、ご自身のプライベートと仕事の両立体験、職場内でのサポート体制等と多岐にわたっており、大学教員からはお子さん同伴の野外調査の様子も紹介された。参加者はおにぎりやサンドイッチを頬張りながら、時折メモを取りつつ耳を傾けていた。

続く自由懇談セッションに入ると、話題提供者が各グループのテーブルに着席し、引き続きテーブルごとに自由に情報交換を行った（写真1）。前述したように、今回のセミナーは社会人参加者の割合が相対的に高かったためか、女性技術者・研究者のネットワーク作りの話題で盛り上がった他、社会人参加者からもライフイベントに関する体験談やアドバイスを提供いただくなど、社会人同士の情報交換もかなり活発に行われていた。自由懇談時間が20分強と短かったこともあり、セミナー終了時刻である13時30分になっても話がつきぬ状態であった。終了後も話題提供者・参加者ならびに年会実行委員の皆様にお手伝いいただき、会場の原状復帰を行った。

今回のセミナーでは、残念ながら参加者数が定員に届かなかった。セミナー終了時に実施したアンケート（有効回答数18）によると、話題提供セッション、自由懇談セッションともに参考になった、または有意義であったと回答していること、また半数が今後も参加したい、残る半数もテーマによっては参加したいと回答したことから、参加者には満足いただいたと考えている。一方、セミナー情報の入手先は知人・先輩・教員からの紹介が圧倒的に多く、口コミ以外のセミナー情報の周知の強化が必要と考える。今後、本セミナーで取り上げて欲しいトピックについて尋ねた設問では、「水環境分野の仕事内容・特色」「女性技術者・研究者のキャリアパス」「ワークライフバランスの取り方」の順に希望が多かった。自由記述コメントでは、学生参加者からは「仕事内容のみならず、年齢ごとの具体的なライフイベントがわかり、将来を考えるきっかけになった」という声が多く寄せられた。また、学生・社会人に共通する声として、「組織内ではこういった話をする機会がないため、非常に参考になった」「境遇を同じくする研究者／水環境系職種的女性と知り合いになれた」といった声も寄せられ、ネットワーク作りへの期待も垣間見えた。今後のセミナー内容等に対しては、「女性の管理職に向けてのキャリアパス紹介」「男性（企業の採用に携わる方々）の参加促進」「交流の時間がもっと長くても良い」「もっと多くの人と話したい」「学生と社会人それぞれ異なるニーズへの特化」といった意見が出された。今回で通算6回目の開催となった本セミナーであるが、会員ニーズの精査を通してより魅力度の高い企画を続けていく必要があると考える。

最後に、業務ご多忙な折にも関わらず話題提供にご協力いただいた皆様、そして学会セッションの合間を縫ってご参加いただいた会員の皆様に厚く御礼申し上げます。



写真1 自由懇談の様子